

行財政構造改革プラン市民説明会に係る質疑応答について

令和3年10月～12月に開催しました、行財政構造改革プラン市民説明会における質疑応答の主な内容については、次のとおりです。

●：参加者 →：市

1 「長期財政収支」に関する質問

- 令和3～9年度の歳出超過額（約816億円）の具体的な内訳は。
→ 具体的な削減の目標値や歳入確保の数字は、改革プラン本体にお示ししている。
- 長期財政収支の算定には、橋本駅周辺整備事業や関連する道路整備事業は含まれているのか。
→ 橋本駅周辺整備事業は、長期財政収支の算定に含まれているが、方向性が定まっていない道路整備などの事業については、計上していない。
- 令和3～9年度の歳出超過額について、（推測では）現時点で額が減少していると考えられることから、改革内容を変更すべきでは。
→ 計画期間中に見込まれている歳出超過額は、改革によってこれから解消していくものであり、目標に向けてプランの取組を進めていきたい。

2 「新たなまちづくり事業」に関する質問

- 美術館整備事業について、歳入確保につながる可能性もあるのでは。
→ 財源に余力があれば、本市にも美術館が欲しいという気持ちはある。改革プランでは凍結したが、引き続き市民の皆様の思いも確認していきたい。
- 新斎場整備事業について、整備を進めるべきでは。
→ 本来ならば、事業を推進したかったが、土砂災害の危険があるとの調査結果から、市民の安全安心を第一に優先すべきと考えているところである。
- 橋本駅周辺整備事業について、具体的な事業内容や費用はどのくらいになるのか。
→ 大規模事業評価の実施によって、事業の必要性などを学識経験者に評価して頂き、結果を公表することとなっている。詳細については、その中でお伝えしていきたい。

3 「既存の公共施設等の見直し」に関する質問

- 銀河アリーナについて、施設を維持することはできないのか。
→ 施設の維持に多額の経費が見込まれ、現在、「公の施設としての廃止を含めた検討」を行っているが、民間からの意見聴取など、民設運営に関する調査・検討を行っている。

- 教育に力を入れたいと言っているにも関わらず、なぜ学校の統廃合を考えるのか。
→ 学校の統廃合は、学校規模の適正化を図り、望ましい教育環境を築くために取り組むものであり、歳入確保を目的とするものではない。

- 市体育館について、どのような検討がされているのか。
→ 市の体育館は老朽化が著しい施設のため、廃止に向けた取組を進めており、代替場所の確保については、周辺施設などを活用することとしている。

- 淵野辺駅南口周辺まちづくり事業について、改革プランと市民検討会の整合性はどのように取るつもりか。
→ 事業費や行政面での課題整理と合わせて、市民検討会の検討結果を検証しながら、今後も取組を進めていきたい。

4 「歳入確保策」に関する質問

- 改革プランは、「歳出削減」が強く出ているので、収入を増やす方向性を示す方がよいのでは。
→ 改革プランについては、歳出削減だけでなく、市税やふるさと納税等に関する歳入確保策も掲げている。

- 歳入確保策として、住民（企業）を増やすという視点が大切ではないか。
→ 本市のようなベッドタウンは、一般的に住民税が基幹税となっており、地方交付税についても住民数が算定基礎となっていることから、歳入確保策の一つとして、注目していく必要がある。

- 税収向上に向けた具体的な施策、活動を教えてほしい。
→ 子育て世帯の移住定住を促す施策の実施など、人口を増やすことを中心に税収を確保し、改革プランでは、これらの施策を検討する部会を設置し、歳入確保に取り組んでいきたい。

5 「政策決定プロセスの見直し及び職員の意識改革」に関する質問

- 職員がいいアイデアや施策を出せるような体制を作るべきでは。
- 職員の意識改革を図り、組織を活性化させていくことが重要と考えている。ご意見を踏まえ、対応していきたい。
- 「政策決定プロセスの見直し」とは、どのような見直しを行うものか。
- 「Society 5.0」など、将来における社会構造の変化に対応できるように、職員の意識改革などにより、戦略的な政策決定を行うものである。

6 「扶助費を始めとした社会保障施策等の見直し」に関する質問

- 扶助費の段階的廃止などは、社会保障の仕組みを否定するのでは。
- 扶助費については、多くの事業を見直しせずに続けてきた現状がある。これから市民の皆様の声を聞きながら、選択と集中を行っていきたい。
- 扶助費の改革など、改革プランは弱い人たちばかりに向けられているのでは。
- 可能ならば、現状の扶助費を維持したいと思うが、現在の本市の財政状況にしっかりと向き合い、改革を進めていきたい。
- 津久井地区の福祉移送サービスについて、利用料金の減額などを考えてほしい。
- 扶助費を一律に削減するのではなく、市民の皆様にとって本当に必要なサービスは何か、ご意見を参考にしながら見直しを進めていきたい。
- はり、きゅう、マッサージ施術料助成事業について、廃止しないでほしい。
- 扶助費の取組については、頂いたご意見を踏まえ、これからどのようにしていくか検討していきたい。

7 「行財政構造改革の推進方策」に関する質問

- 改革案を行うためには、「できたこと、できていないこと」を明確にし、定量的な目標や実行計画が重要と考える。
- 改革プランの進捗については、しっかりと施策を評価し、取組や状況について、適時適切に市民の皆様にお示ししていく。
- 改革プランの推進にあたっては、他の政令市の取組などは参考にするのか。
- 他の政令市や近隣の自治体の取組からも学んでいきたいと考えている。また、これまでは、他市を参考にした施策が多かったと感じているため、本市からも積極的に施策を打ち出していきたい。

8 その他の質問

- リモートワークをしている人たちを本市に呼び込むような施策はあるのか。
→ 藤野駅近くの公共施設にテレワークセンターをオープンし、都心で働いている方などが足を運び、地域とつながるような取組を実施している。

- 未来を担う子どもたちへの投資について、どのように考えているか。
→ 本市では「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、取組を進めるとともに、令和4年度市政運営の基本的な考え方では、「少子化対策」を「重点的に取り組む分野」の一つに掲げている。改革プランでは、「本市が特に重点的に力を入れる分野」などの検討を行い、安心して子育てができる環境を作っていきたい。

- 町田市の施設の方が、子どもを遊ばせるのに適した環境であると感じている。
→ 子育て施策は非常に重要であり、全天候型の遊び場などについて考えていきたい。また、近隣市の施設を相互利用できるように、広域連携にも取り組みたい。

- 子育ての充実には、全ての中学校で調理場方式による給食が必要では。
→ 温かい給食を望んでいる声が多かったため、実施に向けて教育委員会と目標年次を決めているところである。調理場方式にするためには、財源も必要となることから、改革プランを進めた上で実行していきたい。

- シティセールスを始めとして、魅力発信ばかりに注力していないか。
→ 移住者を増やすためにも、これからも情報発信は続けていきたい。また、シビックプライドの醸成をはかり、市民の皆様に本市の魅力発信ができるように努めていく。

以 上